

幼児期の防災教育のあり方と教材の作成

正会員 ○飯泉 知花*1
正会員 久木 章江*2

防災 幼児教育 幼稚園
避難訓練 教材 絵本

§ 1 はじめに

阪神・淡路大震災以降、防災意識の向上は今後の課題として重要だと考えられてきたが、現状において顕著に向上したという状況には至っていない。なお、防災意識を高めるためには成人後ではなく、早期からの教育が有効だと考えられ、いろいろな試みは行われているものの、教材等の環境は整っていないのが現状である。¹⁻³⁾ これらの問題を踏まえ、本報では幼児期からの防災教育に注目し、幼児期の防災教育の現状を把握し、地震に対する防災意識の向上を目的とした教材の提案を行う。

§ 2 アンケート調査の概要

幼児期の地震に対する防災教育を把握するにあたり、2003年6～7月に事前調査として、幼児2名と小学校低学年の児童1名、その保護者3名へヒアリング調査を行った。その結果、幼児が地震を「揺れること」と理解していること、「ガラスが落ちてくるから防災頭巾を被る」といった断片的な知識があること、比較的防災訓練での経験や教員の説明した言葉を詳細に覚えていることなどがわかった。これらの事前調査結果を把握した上で、2003年10～12月にかけて、東京都区内の幼稚園17園にアンケート調査を実施した。調査内容は、各幼稚園における防災教育の実態および幼児の防災教育に対する理解度、教材の必要性とその具体的な内容についてである。

§ 3 幼児期からの防災教育の必要性

幼児期における各種教育の必要性について質問した結果を図1に示す。年少、年中、年長それぞれで子供たちが学ぶ必要性のある知識は異なるとの回答を得たため、それぞれの結果を示した。地震・火災は「幼児期から学ぶ必要性のある知識である」という回答が多く、幼児期から教えるべき知識として位置づけられている。

次に具体的な防災教育として教えるべき内容について

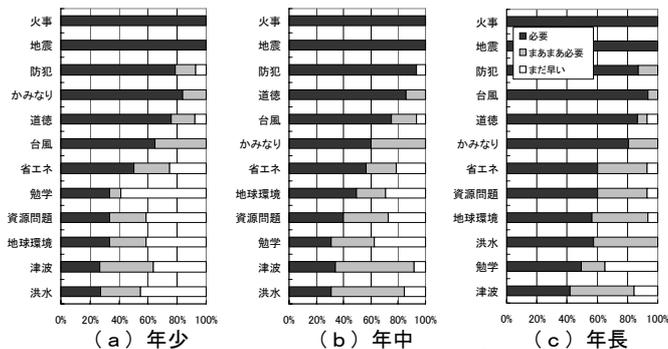
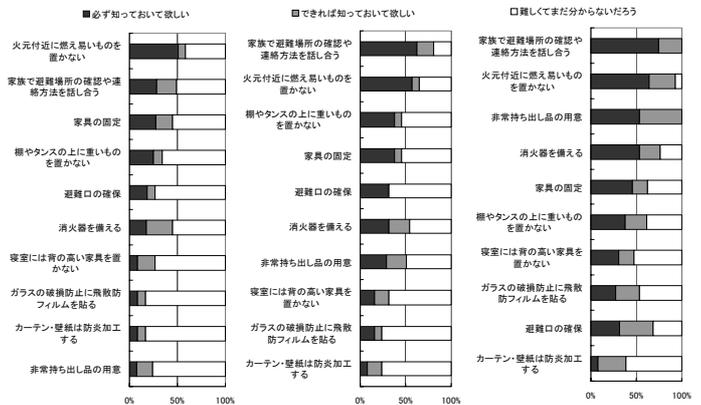


図1 幼児期に必要な知識



(a) 年少 (b) 年中 (c) 年長
図2 幼児期に知っておくべき家庭での防災対策

質問した。結果を図2に示す。

「家庭での防災対策」は年少・年中の幼児には教育の必要性は挙げられず、「保護者や教師の範疇」という意見が多かった。「火元付近には燃えやすいものを置かない」という内容は「子供に必ず知っておいて欲しい」という項目とされている。年長では全体的に「必ず知っておいて欲しい」という回答が増える傾向にある。物事に対する知識や理解度が増えた結果、子供自身が判断して行動し、対応する範囲が広がっていくためと推察できる。

§ 4 幼稚園における防災教育の実態

次に幼児への防災教育現場の一つである幼稚園での防災訓練の実態を調査した。結果を表1に示す。

避難訓練には地震と火災を想定したものの二種類あり、頻度・教育内容等は異なっている。訓練内容・目的の調査結果を表2、その理解度を表3に示す。

年少は「避難訓練を知る」、年中は「指示に従い行動できる」、年長は「自分で考え、行動できる」といった目的が挙げられた。成長すると訓練の理解度は高まるが、繰り返

表2 避難訓練の目的

内容・目的	
年少	・避難訓練の存在を知る ・非常ベルの音を知る ・防災頭巾の被り方を知る ・安全な場所を知る ・非常ベルを聞いて、泣かない ・教師の指示を聞く、従う
年中	・安全な場所を知る ・放送の指示がわかって行動できる ・教師の指示を聞く、従う ・指示された通りに避難の際の注意を守って行動できる
年長	・放送の指示がわかって行動できる ・落ち着いて指示を聞き、年少児の様子にも気をつけて、補助しながら避難する ・目的を知り、どのような行動をとったら良いか考え、訓練に参加する

表3 避難訓練後の理解度

訓練後の理解度	
年少	・少し理解している ・理解は難しい ・教師の指示に従う事を約束する ・教師の傍に集まれる ・あまり重大な事と受け止めていない
年中	・まあまあ理解している ・よく理解している ・個人差が見られる ・指示に従って行動できる
年長	・ほぼ理解している ・よく理解している ・スムーズに行動できる

表1 幼稚園で実施している訓練の頻度とその内容

幼稚園		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
避難訓練の頻度	火災を想定した訓練 (年〇回)	5	1	1	0	9	4	1	5	7	1	2	3	2	6	2	1	6	
	地震を想定した訓練 (年〇回)	6	4	1	0	9	4	3	6	4	0	1	3	4	2	1	1	5	
避難訓練の参加年齢 (〇才か)		4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	
地震想定 の避難訓練 内容	a. 地震とは何か																		
	b. 幼稚園にいる時に地震が起きた時の対処法																		
	c. 幼稚園の行き・帰りの対処法																		
	d. 家にいる時に地震が起きた時の対処法																		
	e. 家でできる防災対策																		
	f. その他																		
上記 b・c・dの 具体的な 内容	b	机の下に潜る																	
		防災頭巾を被る																	
		慌てずに逃げる																	
	c	逃げる際に人を押しついたりしない																	
		その他																	
		防災頭巾を被る																	
		高い建物の少ない広い場所へ逃げる																	
		崩れかけている塀や手すりには近づかない																	
		屋根瓦、看板など落下物に注意する																	
	d	むやみに外に逃げ出さない																	
		避難時に持ち出す物は最小限にする																	
		その他																	
避難訓練以外 での防災教育	d	防災頭巾を被る																	
		机の下に潜る																	
		素早く火の始末																	
	その他	玄関のドアを開け、避難口を確保する																	
		むやみに外に逃げ出さない事																	
		避難時に持ち出す物は最小限にする																	
・している																			
・していない																			

■避難訓練で実施している

返し指導による効果もあるという意見が多い。学年の理解度レベルと目的を踏まえた訓練を適切に行えば幼児期の防災教育も効果がある。

§5 絵本教材の試行と評価

幼稚園での調査結果を踏まえ、子供たちに分かりやすく、興味をもって防災について学ぶことのできる絵本教材を作成した。構成および内容の一部を表4に示す。

表4 採用案の絵本教材内容・構成

形式	クイズ形式	内容	目的	分析	【親の視点】	【子供の視点】	【全体】
内容	【幼稚園での地震想定避難訓練】 ・全学年に共通する避難訓練内容 ・防災頭巾を被る ・机の下にもぐる ・園庭の真ん中に避難する (お・か・し・も)	・発災時の避難方法を伝える ・基本的には家においても同じ避難方法であることを伝える	幼稚園も子供にとって身近な場所で避難方法を伝えやすい	【親の視点】 ・保護者自身が発災時にどう行動したら良いかは伝えられない	【子供の視点】 ・幼稚園で体験する内容で、子供自身がどう発災時に行動するか、という内容であるため、実感をもたせ、印象づけしやすい	【全体】 ・複数の登場人物構成にすることで、伝えたい避難行動が明確に伝えられ、読んであげる保護者も教えやすい	

幼稚園へのアンケートでは、絵本教材への要望や、絵本の内容などについても評価を得た。着実に身につけることを目的とする場合は登場人物を人間にする方がよいなど、絵本に対する意見についても整理した結果、「幼稚園での避難訓練」を舞台とし、クイズ形式の内容構成とした。子供を飽きさせない効果と、登場人物を複数にして正しい行動と間違った行動を対比する効果と、読む側

*1 文化女子大学住環境学科 副手
*2 文化女子大学住環境学科 助教授・博士 (学術)

の保護者への啓発効果を考慮している。さらに教案について、「親の視点」「子供の視点」「全体的視点」の3点から検討した。

試作した絵本を幼児10名と保護者9名に読んでもらい、両者の視点で評価を得た。結果を表5に示す。

表5 絵本教材の評価結果

<親の評価結果>	
1. 教材使用適齢期	平均3.5歳~6.8歳
2. シチュエーションの適性	適している
3. 形式の適性	適している
4. 登場人物の適性	適している
5. 自由コメント	・文字数が多い ・不正解の理由がわかりにくい ・幼稚園での避難訓練と合わせて使用できれば理解度があるのでは・・・ ・ちょうど良い長さ ・クイズ形式はとても良い e t c
<子供の評価結果>	
6. 理解度	だいたい理解している
7. 興味の程度	興味をもった
8. 感想	・面白かった ・気に入って何度も読んだ ・「地震で大変だな」と思った e t c

親の評価結果で「教材使用適齢期」は10歳までという回答もあった。子供の評価については保護者の観察により、保護者が記入する方式で行ったもので、「親が思っていた以上に知識があった。」というコメントもあった。幼児期でも防災教育が理解されており、絵本で学ぶことで復習の効果もみられる。

また教材の改善点としての指摘内容を表6に示す。これらを修正し、最終案を作成した。

自主的に学ぶ”第一

段階である幼児期は、早期教育に適すると考えられ、本教材の有効性もうかがえた。

§6 おわりに

本報では幼児期から幼稚園を対象に防災訓練等の実態を調査した。さらに幼稚園での意見を参考に絵本教材の試作を行い、評価・分析を行った。学齢期以前は避難訓練内容や目的、訓練後の理解度が異なり、徐々に知識が高まる時期であることがわかり、この時期を対象に基本的な内容の早期教育を行うことは重要であると考えた。

【引用文献】

- 1) 石澤栄里, 石川孝重, 伊村則子: 小学校・中学校における防災教育のあり方—命を守る動機づけのために—, 日本建築学会学術講演梗概集 pp. 667~668, 2000年9月.
- 2) 石澤栄里, 他3名: 安全意識向上のための社会における安全教育に関する研究—その1 アンケートにみる市民の意識と啓発・教育の実施例—; —その2 心理学的側面からみた分析—, 日本建築学会学術講演梗概集 pp. 25~28, 1999年9月.
- 3) 伊村則子, 石川孝重: 安全意識向上のための社会における安全教育に関する研究—その3 防災副読本にみる動機づけに関するケーススタディ—, 日本建築学会学術講演梗概集, pp. 441~442, 2001年9月.

*1 Assistant, Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ.
*2 Assoc. Prof., Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ., ph. D.